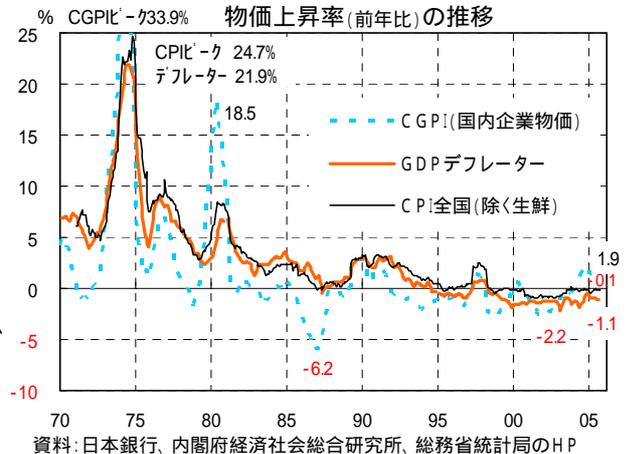


1. 参考資料

- ・「消費者物価指数年報」、総務省統計局、各年版 (<http://www.stat.go.jp/data/cpi/index.htm> も利用可能)
- ・「物価レポート」、経済企画庁、1975～2000年

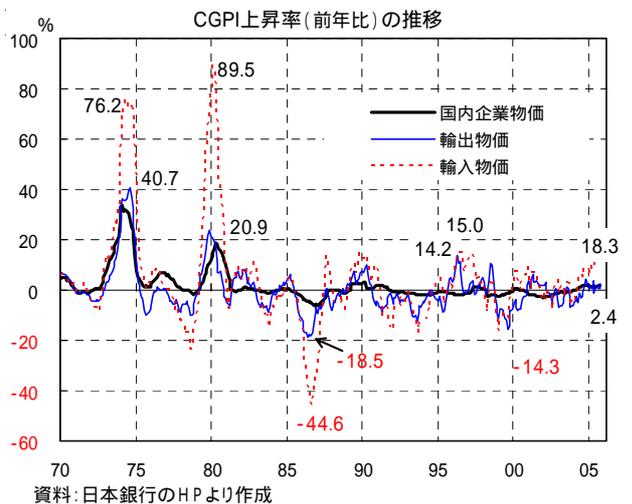
2. 消費者物価指数 (CPI < Consumer Price Index >)

- ・総務省統計局が作成：**全国**と**東京(速報)**が有名
- ・**ラスパイレス型**で算出 (基準時加重相対法)
- ・最新版 598 品目：基準改定時に品目等を見直す
「平成12年基準消費者物価指数」が最新版
2003年1月にも2品目を追加
- ・「除く生鮮食品」が注目される 生鮮食品の振れ大
ウェイト: 生鮮食品 4.5% など食料 27.3%、住居 20.0%、
交通・通信 13.1%、教養娯楽 11.3%、光熱・水道 6.5%
- ・厚生年金支給額(2000～02年には不適用)などが連鎖
現在では、日本銀行の金融政策でも注目



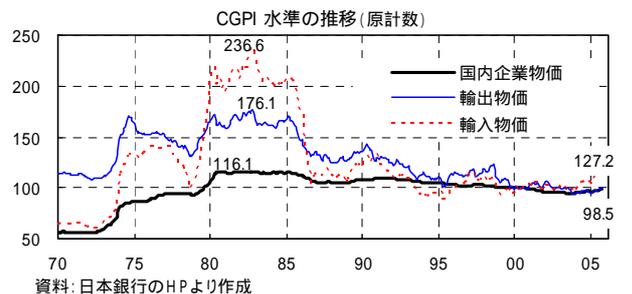
3. 企業物価指数 (CGPI < Corporate Goods Price Index >)

- ・日本銀行が作成：2002年12月から名称を変更
従来: 卸売物価指数 (WPI < Wholesale Price Index >)
- ・最新版 1,407 品目：現在は **2000年基準**
国内企業物価 910 品目、輸出物価 222 品目、輸入物価 275 品目。国内企業物価の 91.9% が工業製品
- ・大きく振れる輸出物価・輸入物価 (円ベース指数)
為替相場の変動 (特に外貨建て貿易の場合) や 交易条件の変化を反映したもの
輸入物価では石油・石炭・天然ガスのウェイト 22.1%
- ・国内企業物価は相対的に安定：ピーク比 17% 程度
輸出物価はピーク比 43%、輸入物価は同 47%



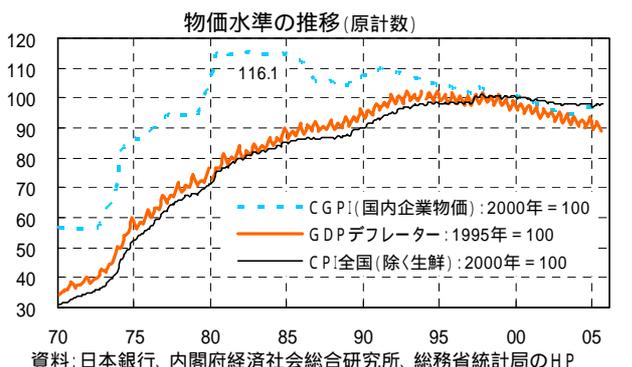
4. GDPデフレーター

- ・「名目 GDP / 実質 GDP」で計算されるもの
パーシェ型の価格指数 (ラスパイレス型の数量指数)
ウェイトは GDP の各項目の数量 (各時点)
工業製品や消費財に偏らないのはメリット
- ・四半期データと年(度)データ：季節性が窺える
計数発表に時間がかかるほか、改訂の可能性も
- ・CPI と似た動きをしていたが、最近では乖離？
連鎖方式に変更して CPI との乖離が縮小



5. 経済理論と物価

- ・「相対価格」と「一般物価」の違い
相対価格の変化とは異なる筈の一般物価の変化
- ・フィリップス曲線と貨幣錯覚の議論
- ・変動相場制下での内外価格差の持続
購買力平價からの乖離が長く続いているのは？
- ・消費者物価の正確性を巡る議論
高目の数字がでるバイアス？ 安売店の扱いなど



以上

本日4限の中間試験を受けない人は期末試験を受けても不受。全体では2/3以上出席すること。